



校報

けむやま

矢巾町立煙山小学校
H28.9.27(火) 第10号
紫波郡矢巾町北矢幅 1-2
Tel.697-3163

置かれた場所で 咲きましょう!

「劇団四季の演出家浅利慶太氏は「舞台上の主役は実は主役ではない。その他大勢が主役だよ。」と言われるそうです。選手は競技場での主役。それを引き立て輝かせる脇役、応援

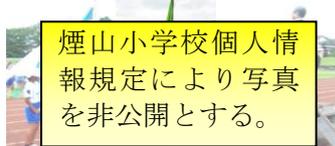
団、補助員もまたチーム煙山の主役。”

9月14日の陸上記録会。選手の皆さんはもとより、6年生 [] を団長とする応援団も補助員の皆さんも、自分の持ち場で精一杯頑張ってきました。

4校を代表して選手宣誓したのは、6年男子200mで1位になった [] です。

指先がぴんと伸びた [] さんのその姿勢が周りの空気を引

宣誓!
私たち選手一同は、今まで一生懸命練習に取り組んできた成果を十分発揮するとともに、準備・応援くださる方々に感謝の気持ちを持ち、他の小学校の友達とも交流を深めながら、最後まで走り・跳び・投げることを誓います。



煙山小学校個人情報規定により写真を非公開とする。

き締め、大会を盛り上げる場を演出してくれました。どのような場でも、自分の役割を精一杯果たすこ

煙山小学校個人情報規定により写真を非公開とする。

と。自分を創るのは自分自身。日々の生活の中で自分の置かれた場所で誠を尽くし、自分の花を咲かすこと。そういう頑張りをみせてくれたチーム煙山の子供たちに大きな拍手をおくりたいと思います。

今大会で唯一の大会新記録がうまれました。6年女子800mに出場した [] です。記録は2分31秒8。前回記録はH19年度の2分38秒3。なんと7秒ほど縮める大記録となりました。この記録は [] さんへのみならず学校全体の成果として今後記憶にとどまることと思えます。希歩さんおめでとうございました。

金賞おめでとう!

8月30日。郡山市民文化センター会館で行われた吹奏楽部東北大会。

この大会で見事銀賞に輝いた煙山小学校吹奏楽部。19年ぶりのこの快挙に大きな拍手を送りたいと思います。

顧問の田中先生は金賞を獲得できなかったことを悔しがっていました。子供たちも、保護者会の皆さんも同じ思いだったことでしょう。夜7時30分に帰校した吹奏楽部。音楽室でのミーティングは子供も親も先生もみな涙が溢れるものとなりました。頑張ってきたからこそその涙です。

田中先生が総括でこう締めくくりました。「銀賞は悔しかったけれど、宿泊先でのみんなの過ごし方は金賞だった。よく食べ、よく寝て次の日に備えたこと。今朝のみんなの顔からそのことが良く分かって嬉しかった。今度はコンクールでなくなるけれど、みんなに喜ばれる演奏を目指していきましょう。この“飛鳥”の楽譜を宝物にして…」

次は、「ぎん」の「」を取って、正真正銘

の「きん(金)」賞を目指して頑張ってもらいたいと思います。

日夜戦う「心」の戦士 ケムヤマン



ある先生の指導記録より

全員で図書館に本を借りに行き、教室に戻るときに男子児童が階段で危険なことをしたため、A先生が厳しく指導していた。するとYさんが「A先生は男?女?」と聞いてきた。声のトーンが低かったのでそう感じたようだ。命にかかわることなので真剣に話しているからだよと話す、「そうか」と納得したようだった。

すこしたつと、今度は指導されている児童を見て「今ね、あの子の中で悪い戦士といい戦士が戦っていると思うよ。いい戦士が増えるように戦っているよ」とYさんが言った。「Yもね、戦ってね、いい戦士が増えて勝ったんだよ。でもねえ、悪い戦士のボスがまだいるんだよ～」

なんて素敵な考え方ができるんだろうと感動した。

高め合おう
礼節を重んじ美しく

人手が足りない！



9月19日。
朝5時30分に
自宅を出発。途
中、知人宅に被災見舞に伺い、
小川のボランティアセンター
に向かいました。

そこでは、
金ヶ崎などの他市町村の社会福祉協議会の
職員がボランティアの受付や支援先へのグル
ープ分けを行っていました。

私の支援先は沢沿いに建てられた高齢の
女性二人が住まう一軒家。

沢がえぐられ、溢れた土砂が家の庭に1
メートルも堆積。そして、家の裏側をふさぐ
畑の黒土と混じった土砂。6メートルも上か
ら濁流となって一気になだれ込んできたと
いいます。家の壁を押しつぶし、土砂が家の
中に入り込んでいます。間一髪で家屋から外
に避難したとのこと。そこは二人並んで作業
するぐらいが精一杯の狭さ。重機が入らない
ため、人手でかきだすしかありません。

現地で合流した盛岡からのボランティア
隊と合わせ10人の男たちで作業開始。スコ
ップ、ねこ車(一輪車)で悪戦苦闘の午前、
午後。

とにかくスコップが土にくいこみ難い。さ
らにはスコップに土が貼り付き、やりにくい
のなんの。汗が玉のように噴きでます。

休憩中は、自然と自己紹介や近況などで会
話が弾みます。

「どこからいらしたんですか？」

「群馬、千葉、秋田、東京から単身赴任で盛
岡に住んでいるので募集に応じました…。」

「この間は熊本にいつてきました。」

「お～～！すげー！」と一同感嘆の声。

「おれは矢巾から。」

「わたしも矢巾なんです。矢巾のどこ？」

「上矢次！」

「私は北矢幅、縁がありますね。」

職業も年齢も様々。ちなみに私が一番の年
長者でした。

一人、どう見ても30歳前の若者がいまし
た。スコップの使い方もぎこちなく、ネコ車
を押す姿もふらついていました。

「どこから？」

「東京からです。」

「こういうボランティアは初めてですか？」

「はい、スコップを持つのは生まれて3回目
です。」

「普段はなにをなされているのですか？」

「大学病院の消火器内科で内視鏡手術をし
ています。」

「明日帰って、手術があるんですが、手が震
えるかもしれません。」

爆笑です。と同時にこういう心の篤い若い
医者がいることに感激しました。

この名医！通販で買って来たというキン
キラキンの移植ベラ(シャベル)を見せなが
ら、

「役に立たないですよねえ…」とぼつり。

すかさずチームリーダーがフォロー。

「それにみんなの名前を書き込んで今日の
記念にしたら？」

ところがこのシャベル、最後に家の基礎の
換気口に詰まった土をかきだすのに大活
躍！さすが狭いところはお手のもの。

この快挙(!?)をみんなから褒めちぎら
れ、ドヤ顔されて作業が終了となりました。

被災されたお宅のお二人から感謝された
ものの、復旧はまだまだこれから。このまま
立ち去ることへの申し訳ない思いと、お手伝
いさせていただいたことへの感謝がこみ上
げてきました。

一期一会の10人。再会を願い別れを惜し
みながら帰宅の途につきました。

ボランティアが不足しているとのこと。矢
巾町の社会福祉協議会でも、ボランティアを
募集し、団体を組んで各地に派遣しています。

被災地に思いを寄せることだけでもいい
と思います。そういう思いが、この間の児童
会の募金として結実しています。

9月15日に、児童会、JRC 委員会で取
り組んだ募金活動。総額24,290円も集
まり、代表
児童2名で
役場に届け
てきました。

煙山小学校個人情報規定によ
り写真を非公開とする。

瀧 PTA
会長さんか
らも、PTA
で何か支援
ができるも
の

がないかという思いが伝えられています。

現地声を聞きながら、支援の輪を拡げて
参りたいと思います。